

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の一つとして掲げており管理者及び職員はその理念を共有し運営、実践を行っている。	企業理念の一つとして掲げており管理者及び職員はその理念を共有し運営、実践を行っている。	企業理念「奉仕の心」を事業所理念として、誠実な気持ちで他者愛するを基本に利用者一人ひとりの生活とその人らしさを尊重しながら豊かな人間関係をつくり支え合い暮らし続ける環境づくりを目指している。朝の申し送りの際等、職員間で共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会のご協力にてお祭りのお神輿等をお披露目に来て頂き子供会の方にお菓子を配ったり地域の一員として協力している。	自治会のご協力にてお祭りのお神輿等をお披露目に来て頂き子供会の方にお菓子を配ったり地域の一員として協力している。	自治会に加入し地域の一員として事業所にも回覧板が回ってくる。利用者も内容を読んで地域の行事にも参加している。お祭りには子供みこしが来て利用者や交流したり、散歩や洗濯物を干している時など挨拶を交わしたり、隣近所の人から季節の果物や野菜の差し入れもあり日頃から関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方等に認知症の理解や支援の行い方などお伝えすることによって活かしている。	見学に来られた方等に認知症の理解や支援の行い方などお伝えすることによって活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を適宜開催し、報告や話し合いを行い出てきたご意見等をサービスの向上に繋げている。	運営推進会議を適宜開催し、報告や話し合いを行い出てきたご意見等をサービスの向上に繋げている。	運営推進会議には自治会組長・民生委員など地域の方も参加しているので、外部からの情報・意見を聞く良い機会と捉えている。事業所からは、行事や日頃の様子を報告している。家族に送るお便りも写真を中心とした内容で見やすく評判が良い。行事の内容を地域に回覧したらどうかなどの意見も出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば甲府市長寿支援室介護保険課各担当にお話し助言や指示等の協力をうけ運営を行っている。	何かあれば甲府市長寿支援室介護保険課各担当にお話し助言や指示等の協力をうけ運営を行っている。	市役所の担当者とは、毎日のように電話や市役所に向いては常に相談に乗ってもらっている。開所した当時は、問題解決に向けて細部にわたり指導してもらった。運営推進会議の議事録の提出や市の介護保険課から月に1回介護相談員を受け入れ、利用者の話相手や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適性化のための委員会を適宜開催し、話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適性化のための委員会を適宜開催し、話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会の研修会は2か月に1回行っている。本社の事業所での研修は、事前にアンケートを提出し職員が全員参加している。玄関の施錠は外部からのセキュリティーの面から玄関で対応することで感染症の予防にもなっている。スピーチロックは言葉のかけ方の工夫などで職員がお互い注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修を本社が定期的に行っており虐待防止について学び事業所で虐待が発生しないように防止に努めている。	虐待研修を本社が定期的に行っており虐待防止について学び事業所で虐待が発生しないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様ついて居宅ケアマネ様、病院ソーシャルワーカー、施設ケアマネ、施設長にて協議行った経緯ありその時は制度は活用するまでもないとの判断を行った今後もそのような案件があれば活用できると判断に達したら活用し支援を行っていく。	利用者様ついて居宅ケアマネ様、病院ソーシャルワーカー、施設ケアマネ、施設長にて協議行った経緯ありその時は制度は活用するまでもないとの判断を行った今後もそのような案件があれば活用できると判断に達したら活用し支援を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前からお家族様には分かりやすく施設での生活の行い方等の説明を行い疑問に思うことは質問して頂き納得されてからお契約を再度しっかり説明を行いながらご納得を頂き行っている。	契約前からお家族様には分かりやすく施設での生活の行い方等の説明を行い疑問に思うことは質問して頂き納得されてからお契約を再度しっかり説明を行いながらご納得を頂き行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望や意見は可能な限り受け止め対応し要望や意見のあった利用者様、ご家族様に対応した結果まで説明し運営に反映させて頂いている。	利用者様、ご家族様の要望や意見は可能な限り受け止め対応し要望や意見のあった利用者様、ご家族様に対応した結果まで説明し運営に反映させて頂いている。	家族の面会が多く職員に対して何でも言いやすい関係性になっている。家族から車椅子を用意するのにレンタルが購入にしようかの相談や利用者と家族だけで外出の時間を食べさせたらいいか、どんな服を買ったらいいか等、個別ケアに聞かれる内容が運営に関する内容になるのではないかと捉えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議等で職員に考えや意見を出し合ってもらい決まったことを実施し実施した結果を再度会議で話し合い反映させている。	フロアー会議等で職員に考えや意見を出し合ってもらい決まったことを実施し実施した結果を再度会議で話し合い反映させている。	職員会議はフロアーごとで月1回行い、管理者、ケアマネジャーも出席し、内容は個別のカンファレンスが中心になっている。職員からはバスマットやシャワーチェアの購入、浴室入り口に手作りの暖簾等出された意見は取り入れて反映している。有給や希望休は取りやすく働きやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者として職員が働きやすい環境を提供出来るように適宜改善や聞き取りを行っている。	管理者として職員が働きやすい環境を提供出来るように適宜改善や聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には可能な限り職員には参加して頂きスキルアップに努めてもらうようにしている。	研修には可能な限り職員には参加して頂きスキルアップに努めてもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者として同業者の集まりや研修講習に参加し交流をする機会を作っている今後は職員も同業者の交流の場に参加して頂き刺激を受けサービスの向上が上がっていくようにしていく。	管理者として同業者の集まりや研修講習に参加し交流をする機会を作っている今後は職員も同業者の交流の場に参加して頂き刺激を受けサービスの向上が上がっていくようにしていく。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない利用者様には要望やお話を聞きながら不安な所を和らげていくよう初期段階は安心して頂けるような関係作りを職員は努めている。	入居間もない利用者様には要望やお話を聞きながら不安な所を和らげていくよう初期段階は安心して頂けるような関係作りを職員は努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の見学段階からご家族様にはお困りごとやどのように生活をして欲しいか等のお話をたくさん聞かせて頂きそれに対して提案を行いご理解を頂いている、またお会いするたびにお話を重ね良い関係作りを努めている。	最初の見学段階からご家族様にはお困りごとやどのように生活をして欲しいか等のお話をたくさん聞かせて頂きそれに対して提案を行いご理解を頂いている、またお会いするたびにお話を重ね良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごとをご家族様に聞き取りすることも行うが、どのようにホームで過ごしてほしいかを深く聞き取り出来る能力有する力で行えることを考えそこにまず必要な支援を見極めそれをご家族様に提案し対応をおこなっている。	お困りごとをご家族様に聞き取りすることも行うが、どのようにホームで過ごしてほしいかを深く聞き取り出来る能力有する力で行えることを考えそこにまず必要な支援を見極めそれをご家族様に提案し対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを奪わない一緒に出来るところは行って頂く出来ないところは支援を行っていくを職員間で統一してケアとし共有することによって暮らしを共にする関係性を築いている。	出来ることを奪わない一緒に出来るところは行って頂く出来ないところは支援を行っていくを職員間で統一してケアとし共有することによって暮らしを共にする関係性を築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご見学の段階から当ホームの考え方としてご家族のご協力を前提に施設の職員と一緒に支援を行い利用者様が良い生活が行えるようにしていくことを言い方は適切ではないかもしれないがご家族も巻き込んだケアを説明しご理解頂いたご家族様がご入居を決めて頂いている。	ご見学の段階から当ホームの考え方としてご家族のご協力を前提に施設の職員と一緒に支援を行い利用者様が良い生活が行えるようにしていくことを言い方は適切ではないかもしれないがご家族も巻き込んだケアを説明しご理解頂いたご家族様がご入居を決めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人に関しては事前にご家族様にご確認をとり問題なければ来訪して頂いている場所に関しては時期や感染症などを考慮しご家族対応にてお出かけされている。	ご友人に関しては事前にご家族様にご確認をとり問題なければ来訪して頂いている場所に関しては時期や感染症などを考慮しご家族対応にてお出かけされている。	昔の職場の仲間や教え子、近所の方などの面会には家族に連絡をして会いに来てもらっている。昔から利用している理容室や美容院、馴染みの場所への外出は家族に対応をお願いしている。また、利用者に手紙や電話が来ることもあり、対応して人や場所の関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様利用者様のお世話をやいて下さったりお手伝いをされること多くみられる職員は怪我やトラブルに注意しながら関係性をとりもち支援を行っている。	利用者様利用者様のお世話をやいて下さったりお手伝いをされること多くみられる職員は怪我やトラブルに注意しながら関係性をとりもち支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての方ではないが契約が終了してからもご連絡があったり野菜などお持ちになられるご家族様おられ色々お話をしたり聞いたり関係が続いている。	全ての方ではないが契約が終了してからもご連絡があったり野菜などお持ちになられるご家族様おられ色々お話をしたり聞いたり関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を受け止めリスクも考え可能な限りの対応や代替えの提案をご本人にお話をして検討おこなう。	希望や意向を受け止めリスクも考え可能な限りの対応や代替えの提案をご本人にお話をして検討おこなう。	入居前にある程度の希望や意向は把握しているが、日常のケアの中から職員が出来るだけ多く会話をもち把握するよう努めている。意思表示できない利用者には、表情やジェスチャー等でコミュニケーションを取るようになっている。利用者から「大阪に行きたい」との要望にも家族の協力を得て実現した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を把握し利用者様同士の会話の中に入り利用者様同士の関係を築いたり、生活環境ではペットの起き上がりの習慣などもとらえベッド向きなどに反映したりし利用者様が長年の生活で動きやすい起居動作や配置などに繋げている。	生活歴等を把握し利用者様同士の会話の中に入り利用者様同士の関係を築いたり、生活環境ではペットの起き上がりの習慣などもとらえベッド向きなどに反映したりし利用者様が長年の生活で動きやすい起居動作や配置などに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の性格やADL、認知症の状態も把握し一日の生活動作の安全の確保や安楽な過ごし方が行える様努めている。	利用者様の性格やADL、認知症の状態も把握し一日の生活動作の安全の確保や安楽な過ごし方が行える様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議の中で適宜カンファレンスをおこない、利用者様の現状に即した介護計画書を見直しや作成をおこなっている。	毎月会議の中で適宜カンファレンスをおこない、利用者様の現状に即した介護計画書を見直しや作成をおこなっている。	入居前、事前に出るだけ細かくアセスメントし暫定的なケアプランを作成して、入居後は随時必要に応じて見直しを行ない、3か月でフロア会議を行ないカンファレンス後、正式なケアプランを作成している。変化がなければ6か月で見直しを行っている。職員の担当制はなく利用者を職員全員でケアにあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記録を記入し変調や変わったことがあれば引き継ぎ共有し見直しに役立っている。	日々個別に介護記録を記入し変調や変わったことがあれば引き継ぎ共有し見直しに役立っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生み出されるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出た場合柔軟に対応している。	新しいニーズが出た場合柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る範囲で行えることを支援し暮らしを楽しんで頂けるよう努める。	出来る範囲で行えることを支援し暮らしを楽しんで頂けるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時ご家族の要望もお伝えしながら医師との関係性を保ちつつ医療が受けられるよう努めている。	往診時ご家族の要望もお伝えしながら医師との関係性を保ちつつ医療が受けられるよう努めている。	利用者全員が事業所の協力医を希望して定期受診をしている。薬も協力医から処方してもらっている。義歯の状態、かみ合わせなど口腔ケアに関して歯科医の訪問診療の定期受診を行っている。他の専門医の受診には、家族が同行し日常の様子を口頭で伝えている。家族が不都合の時には、職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時看護師に伝え対応して頂いている。	訪問看護時看護師に伝え対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院Drや病院相談員にお話を伺い対応している。	病院Drや病院相談員にお話を伺い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で往診Drよりお話がありご家族様と話し合いの機会を作り3者で今後の方針を共有しケアを行った。	早い段階で往診Drよりお話がありご家族様と話し合いの機会を作り3者で今後の方針を共有しケアを行った。	食事摂取が困難になってきたり表情に変化がみられるようになってきた等医療度が高くなってきた時には、早目の段階で家族・主治医・事業所と話し合いを行ない方針を決めている。事業所で最期まで看取りを希望されるときは家族の協力や主治医の往診、訪問看護、24時間点滴、酸素ボンベ等必要なものを用意して家族や本人の意向に添った看取りに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については救急車対応などは職員にて経験もある応急手当に関してはホームで行ったことがまだない	初期対応については救急車対応などは職員にて経験もある応急手当に関してはホームで行ったことがまだない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階の避難訓練の実施をおこなっているまた今後自治会消防団との災害時の対応について連携を取っていく予定	年に2階の避難訓練の実施をおこなっているまた今後自治会消防団との災害時の対応について連携を取っていく予定	年に2回避難訓練を実施している。消防署にも協力してもらい、初期消火の訓練指導、2階から非常階段を使つての避難方法など指導してもらった。夜間を想定した訓練では、連絡網をつくり全職員への連絡と地域住民の参加、協力は何処まで得られるか、地域の消防団の協力も仰ぐか今後の課題とする。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを取りながら気分を害さない言葉かけや話し方を行い、出来ていない方には適宜指導を行う。	コミュニケーションを取りながら気分を害さない言葉かけや話し方を行い、出来ていない方には適宜指導を行う。	日常生活の中では利用者には敬語を使うことを基本とし、名前を呼ぶ時も利用者に合わせた呼び方で、またプライバシーを守る意味で居室に入る時は本人の了解を得てから入るなど配慮している。排泄の声掛けや入浴介助には細心の注意を心掛けている。利用者の中にはドアにカギを掛けている方もいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の際や飲み物のお尋ね等、選べるような判断出来るような声掛けを行い自身で決めることが出来るように努めている。	更衣の際や飲み物のお尋ね等、選べるような判断出来るような声掛けを行い自身で決めることが出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員によっては余裕が無く出来ていない方もいる 余裕をもって勤務できる環境や職員への声掛けを行い個人のペースを尊重した支援を行えるようにしていく。	職員によっては余裕が無く出来ていない方もいる 余裕をもって勤務できる環境や職員への声掛けを行い個人のペースを尊重した支援を行えるようにしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や外出予定時など気をつけて支援行っている。	整容や外出予定時など気をつけて支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や下膳など手伝ってくださる利用者様 がおり適宜一緒に行っている。	食事の準備や下膳など手伝ってくださる利用者様 がおり適宜一緒に行っている。	1週間の献立は職員が作成し、昼食のみ主菜・副菜は外注で朝食と夕食は職員と出来る利用者で行い、見た目の色彩も大事にしている。ほうとうづくりは粉から練って作り、利用者の活躍場面が多く、出来る力を発揮している。食器は陶器で好みのものを使い、トレイは滑らない素材のものを使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取票に記入しており水分の確認を行いつつ水分摂取が少ない方には声掛けし促し保水して頂く	水分の摂取票に記入しており水分の確認を行いつつ水分摂取が少ない方には声掛けし促し保水して頂く		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には口腔ケア後確認させて頂き磨き残し等チェック行っている。	出来る方には口腔ケア後確認させて頂き磨き残し等チェック行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今検討中の方おり可能な時は2名介助おこない便秘時や排便時対応行っている。	今検討中の方おり可能な時は2名介助おこない便秘時や排便時対応行っている。	日中の排泄は、ほぼ全員トイレでの排泄を行ない、立位が不安定な利用者には介助を行なっている。リハビリパンツやバットを使っている利用者も日中と夜ではバットの大きさを替えたり、布パンツに移行出来るよう支援している。排便は便秘傾向の利用者もいるので、チェック表を付けて参考にしている。夜間は安眠を優先するため紙パンツを使う方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤師と連携をとり指示を頂いたり職員同士で排便状況確認にしや薬剤師に確認を行い対応している	薬剤師と連携をとり指示を頂いたり職員同士で排便状況確認にしや薬剤師に確認を行い対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は余裕をもって1日3人を目処で行っている都合ではなくスケジュールを組んで行っている	入浴は余裕をもって1日3人を目処で行っている都合ではなくスケジュールを組んで行っている	入浴をゆっくり楽しんでもらうため余裕をもって1日3人までとし、入浴剤を使ったり、ゆず湯やしょうぶ湯等季節のものを取り入れ入浴を楽しんでいる。入浴を拒否する方には声掛けのタイミングを外さないようにして最低でも週に2~3回は入浴している。利用者が使う洗身用スポンジは使いわけし、好みの洗剤を使っている。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	はなまるホーム甲府山宮	外部評価		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい利用者様や希望された利用者様を必要以上に起こしておくことは無くお休み頂いている。	休みたい利用者様や希望された利用者様を必要以上に起こしておくことは無くお休み頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より詳しく説明や指示のバックアップが出来ており服薬支援においてもお薬のセット段階からトリプルチェック行うなど管理をおこなっており服薬後症状の変化についても変化があれば薬剤師に確認しDrへと連携が出来ている。	薬剤師より詳しく説明や指示のバックアップが出来ており服薬支援においてもお薬のセット段階からトリプルチェック行うなど管理をおこなっており服薬後症状の変化についても変化があれば薬剤師に確認しDrへと連携が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で役割をお願いしお手伝いして頂いたり好きなテレビをみたり音楽を聴いたりと個々で楽しみごとや気分転換も行っているが皆さんと一緒にすることが好きな利用者様が多い。	日々の生活で役割をお願いしお手伝いして頂いたり好きなテレビをみたり音楽を聴いたりと個々で楽しみごとや気分転換も行っているが皆さんと一緒にすることが好きな利用者様が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族のご協力のもと外出や外泊されている、それ以外で天気や時期を考慮し外出のイベントも少数でわけて行う計画を実施している。	ご家族のご協力のもと外出や外泊されている、それ以外で天気や時期を考慮し外出のイベントも少数でわけて行う計画を実施している。	日常的には家族が来た時外出する利用者が多く、散歩や洗濯物を干したり畑の手入れをしたりしている。利用者に外出の希望を聞くとショッピングセンターに行くのが一番人気で好きなものを食べて帰ってくる。事業所内でそうめん流しやバーベキュー、クリスマス会、節分、季節のお花見等、月に1回は行事を取り入れ家族も同席して楽しむになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭のお預かりはしていない為、個々の買物に関しては金銭を所持することが少ない、品物を選んだりすることを楽しめることは出来ている。	事業所では金銭のお預かりはしていない為、個々の買物に関しては金銭を所持することが少ない、品物を選んだりすることを楽しめることは出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるのが難しいためこちらからご家族に了承をえてからおかけしお話し頂くことが多い、お手紙を書かれる方は見られないお手紙を届くことが多い	電話をかけるのが難しいためこちらからご家族に了承をえてからおかけしお話し頂くことが多い、お手紙を書かれる方は見られないお手紙を届くことが多い		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に刺激が強いものがなく混乱もない、日当たりがよく「今日もいい天気だね」と穏やかに環境的には落ち着いている。	特に刺激が強いものがなく混乱もない、日当たりがよく「今日もいい天気だね」と穏やかに環境的には落ち着いている。	フロアは日当たりがよくカーテンを閉めないときとまぶしいくらいで日中はほとんどの利用者がフロアで過ごしている。外の畑には季節の野菜を作り収穫を楽しみにしている。キッチンとフロアが一体になっていてキッチンのシステムもお年寄り向けに低いものになっている。フロアからトイレまでわかりやすく床にテープが貼ってあり迷わず行くことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合った利用者様同士で過ごされている、席については何度もしこ錯誤している。	共用空間では気の合った利用者様同士で過ごされている、席については何度もしこ錯誤している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものなどをご家族様お持ち頂いているベットの向きに関しては今までの起居動作を伺い同じ向きで起きられるようにセットしている。	居室には馴染みのものなどをご家族様お持ち頂いているベットの向きに関しては今までの起居動作を伺い同じ向きで起きられるようにセットしている。	居室にはベット、エアコン、カーテン、クローゼットが整備されており個人の持ち物は布団やテレビ、机や椅子等馴染みのものを持ち込みくつろげる環境に整えられている。中にはお位牌を持ってきている利用者もいる。洋服も季節に合ったものを用意してもらい沢山持ってこないようお願いしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように札を設置したり、居室お名前を分かりやすくしたり、床にラインを引いたりなど工夫を行っている。	トイレの場所が分かるように札を設置したり、居室お名前を分かりやすくしたり、床にラインを引いたりなど工夫を行っている。		